平成２７年度　東京都立芝商業高等学校経営報告

平成２８年３月３１日
校長　丸山　正二郎

Ⅰ　今年度の取組と自己評価

1　教育活動の取組と自己評価

（1）学習指導

①　習熟度別授業と少人数編成授業の実施

次のように習熟度別授業と少人数編成授業を実施し、基礎学力定着に取り組んだ。

習熟度別授業	２学年	英語・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅱ	(2 単位)
		商業・財務会計Ⅰ	(4 単位)
		商業・原価計算	(3 単位)
少人数編成授業	１学年	商業・簿記	(5 単位)
		数学・数学Ⅰ	(3 単位)

この学習効果については、検定試験の合格状況や習熟度別生徒の習得状況から着実に向上してはいるが、学校評価アンケートで効果が上がっていると考えている教員が 61%（▼10ﾎﾟｲﾝﾄ）、生徒・保護者は 60%（▼3ﾎﾟｲﾝﾄ）と低下し、効果検証と共に授業工夫や方策を検討する必要がある。

②　学力スタンダードの推進

学力スタンダードに基づく学力調査を都の共通日２月９日（火）に行い、本校では普通教科の授業時数が普通高校との比較で少ないため調査問題（基礎）で実施しており、都共通問題で実施した科目の結果は次の通りであった。

【１学年】

科　目	国語総合	数学Ⅰ	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅰ
都目標値	６０	６０	６０
自校目標値	４０	３３	４０
本校平均点	**５８．２**	４４．１	７０．９
都平均点	５２．８	４０．５	６２．０

【二学年】

科　目	現代文Ｂ	数学Ⅱ	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅱ
都目標値	６０	６０	６０
自校目標値	４０	２９	４０
本校平均点	６２．４	２９．１	５４．９
都平均点	５７．６	３８．３	５０．６

※ 都の数値は、基礎を選択した都立高校グループのものである。

このデータから、２学年数学Ⅱを除き基礎を選択した都立高校グループの平均は上回っているものの、学校で設定した最低目標値未達成生徒が１年で４名、２年で８名おり、繰り返しの学習指導を実施した。なお、数学Ⅱは２年で２単位、３年で２単位の合計４単位標準としており、まだ試験範囲全部が終了していないため点数が低くなっている。

④　技能スタンダードの取り組み

技能スタンダードを商業関係の各種検定試験活用により標準到達度を明示して行くなど、教科会での研究は進み始めたが、まだ明確になっていない。一層の研究が必要である。

③　授業改善の取組

新規採用３年以内の若手教員研修の授業研究を中心に授業力向上に取り組み、生徒にわかり易く「伝える」授業ではなく「伝わる」授業を呼びかけ、教科ごと、また個々に授業改善に取り組んだ。

（２）進路指導

①　全校体制での進路指導による進路実現

「就職」55.6％（113 名）、「進学」41.4％（84 名）、「その他」3.0％（6 名）であった。昨年に比べ就職者は 9.4 ポイント増加し、進学が 11.4 ポイント減少した。また、その他は 2 ポイント増加した。求人数の増加傾向により就職者が増加し、その分、進学者が減少する傾向となった。

就職については比較的卒業生から直接話を聞くことができた企業への希望が多く、職場環境等に重点を置く傾向が見られた。また、就職者を職種別にみると、事務職が 51％、販売・サービス職が 32％と 8 割強を占め、その他は商品管理・オペレータ・プログラマ・総合職・営業職となっており、商業の学習や指導を生かした職種についていることが伺える。

進学では、四年制大学：42 名（56 名）、短期大学：4 名(10 名)、専修学校等：38 名(39 名)の進学者であった。小論文講座や各科目の夏季集中講座を開催し、それぞれに必要な受講を積極的に行った成果は出ている。

「その他」の 6 名は、企業設立研修学校や進学浪人であり、進路目標は明確に持ちながら卒業までに決定を見なかった人数で、実質的な進路未定者ゼロ指導を継続していく。

②　全校的進路意識啓発の取り組み

進路指導部、1・2・3 学年担任が中心となり職業教育を推進している。特に、卒業生を招いての就職懇談会を 6 月 10 日（水）に実施し、80 社から参加を得られた。同時に進学者向け説明会と見学会を実施した。また、進路が決定した 3 学年生徒による 2 学年への進路体験の講和を 3 月に実施し、また、12 月に実施した 1 学年全員、2 学年就職希望者の計 300 名余でのインターンシップが早期職業観・勤労観醸成と進路意識の啓発に大いに有効であった。

③　進路実現の支援

進路に向けた学年ごとの模擬試験の実施や、各目標に向けた各種検定試験の取得指導を、年間を通じて授業以外の放課後や休業日、長期休業日に講習を行って支援した。

（３）生活指導

①　基本的生活習慣の確立の推進

全校が一致協力して生活指導を実施した。毎朝、生徒からなる学園委員、生活指導部・学年教員を中心に登校時に、遅刻・服装・身だしなみの指導を実施し、各学年平均 3～5 名の常習的遅刻者のほか、1 学年生徒の遅刻が増加傾向にあった。また、月に 1 回頭髪・服装指導を全校体制で実施し、服装・ビジネスマナーとしての意識啓発を図った。また、体罰の根絶に向けた教員への意識啓発を職員会議ごとに行い、ゼロ（０）となっている。

②　ＴＰＯを踏まえた学校文化の醸成

ビジネスマナー教育を全校のスローガンに、身だしなみを整え、あいさつを行う指導を実施した。3 学年の進路活動はもちろん、地域イベント参加や 1・2 学年のインターンシップで、社会の一員としての自覚を醸成するとともに、公共心や道徳心の育成を図った。

③　安心･安全への取り組み

a　セーフティー教室として 4 月に 1 学年を対象に携帯電話によるインターネット事故・不正防止講話を愛宕警察署より講師を派遣して頂き実施した。また、12 月に交通事故被害者家族の全校生徒への講話では、大いに被害者の苦痛や心労等にも耳を傾け、一人一人の意識啓発として有効であった。

b　毎週 1 回(木曜)スクールカウンセラーが常駐し、個々の生徒の相談と担任等教員とで定期的情報共有によって良好な効果をあげているが、年々相談生徒の人数は増加傾向にある。本年度はＳＮＳによる他者の誹謗・中傷類似記載により転学せざるを得ない事件も 1 件発生、初期対応指導で予防できた事例もあったが、高校生ならではのいじめ防止対策をさらに強化する必要がある。

（４）特別活動・部活動

①　主体性・自律性の育成

生徒会や委員会活動を全校で支援し、体育祭や文化祭等の行事を通じて生徒の主体性･自律性の育成を図り、生徒・保護者の満足度（76%）とともに効果をあげている。また、部活動の充実に取り組み、各運動部のみでなく、華道部・茶道部に「青少年を育てる課外活動支援事業」による外部指導者を招聘でき、活動の定着が図られた。部活動の加入率は兼部生徒も多く 100%を超えており、合宿参加や活動を外部に公開する機会を増やすなど、一層の活性化への支援を行っていく。

②　コミュニケーション能力の育成

本年度、国語科の取組から書評合戦、英語部による英語スピーチコンテストへの参加をした。また、商業の関係科目でプレゼンテーションに取り組ませ、地域での奉仕体験活動でもコミュニケーションを意識した事前指導、体験を行うことができた。

③　地域や国際社会への興味・関心の喚起

夏季英国研修への８名の参加（前年６名）が実現し、文化祭等で展示報告を行った。11 月には大阪の高校でのイングリッシュ・ビジネスプランコンテストにも参加を果たした。

一方、都の竹芝ステップアップ・プロジェクトに関して竹芝まちづくり協議会に参画し、その一員として地域の魅力発見やシンポジウム協力に生徒が参加し、地域との交流も推進している。

④　防災教育の推進

ａ　避難訓練の実施

７月、９月、12 月、３月に避難訓練を実施した。港消防署の指導･助言を受け、地震や火災など、災害に応じて避難する場所や経路、方法等を検討し直して実施できた。

ｂ　宿泊防災訓練の実施

６月 12 日（金）～13 日（土）に学校を宿泊場所として１学年全員に一泊二日の宿泊防災訓練を実施した。芝消防署、港区防災課等の協力による避難所設営、起震車体験、放水訓練、救命訓練と、東日本大震災のボランティア体験者による講話に外部講師を招き、意識啓発となった。

（５）学校経営

①　生徒募集活動

ホームページを活用し、通年で平均週２回タイムリーにトピックス発信する改善が図られた。発信の内容や画像等の更なる工夫をしていく。また、全校体制での生徒募集活動が実施できた。

②　組織運営

分掌、委員会、教科会、企画調整会議等の校内運営組織は機能しているが、会議の持ち方や情報の共有が不十分である。打ち合わせや協議等の時間確保が困難で、情報や課題共有、対応策の取り組みを十分に行えるよう委員会等を見直しを行い、体制を確立する。

③　危機管理体制

個人情報管理の徹底、情報通信機器のモラールの高い活用、体罰の根絶、いじめ防止を重点に、校内各指針や規則、手続き等を明確にして整備した。また、服務事故発令通知のたびに全教職員に周知、職員室等で話題にすることで、常に意識啓発を促しいている。

④　開かれた学校の取り組み

竹芝エリアのまちづくり協議会が発足し、生徒と共に竹芝地域の有力な一員として街づくり参加を推進して行く。また、文化放送連携によるＥＣモールや新スーパーマーケット・トレードショウへの参加や浜まつりへの参加､福井県池田町との連携によるモニター事業取り組みもできた。

⑤　経営企画室との連携

学校の施設･設備の安全維持管理、教育活動の裏付けとなる予算の適正・効果的な執行を図ったが、本年度６月から７月にかけて全校空調設備の不具合による対応に苦慮し、緊急措置等で凌いだ。業者選定や予算会議等は円滑に進めることができた。

２　重点目標への取組と自己評価

（１）意欲ある生徒の安定確保

ホームページ、学校案内のリニューアルほか、各種情報提供リーフレットや資料を見直し、訴求ポイントの精選をして説明会や中学校等に全校体制でアピールした結果、入選応募倍率は一次募集 1.09 倍と若干の改善が見られた。学校見学会や説明会への中学生参加者数は、総計914名と昨年度並みで、応募倍率は目標 1.2 倍に達しなかった。根本的な教育内容や新たな取り組みへの興味・関心に手ごたえを感じ始めてはいるものの、一層の魅力作りが必要である。

（２）基礎学力の向上

① 全校朝学習は、各学年と教科の連携によって通年実施をしたが、学校評価による効果について、保護者で 49%（42%）、生徒は 46%（44%）の成果認識であり、昨年と大きな変化は見られず、教員も成果認識は 56%（55%）と低迷している。通年の目標、3 年間継続による成果をあげるため、目標を明示した計画的な実施が必要である。

② 基礎学力を知識面で図る学力スタンダードを活用し、具体的指針をさらに教科会を中心に研究を進め、授業改善を進める必要がある。

③ 定期的な学力測定と向上策の構築は、結局各教科に依存する形で、定期考査のほか単元テストやレポート提出等で実施するに留まり、学校全体として共有していくための具体策着手ができなかった。学力スタンダードの活用とあわせて、生徒の学力を適切に測定し向上するための方策を具体化していく。

④ 言語能力基礎力醸成の方策としての読書活動推進については、年間計画で７・８月の夏季２か月を読書月間に位置づけたが、1 か月に平均 1 冊も本を読んでいない生徒が 42%（54%）、3 冊以上読んでいる生徒は 22%（20%）であった。就職や進学の小論文等の基礎力育成のためにも読書活動推進を強化していく。

（３）魅力ある実践的学習の取り組み

① 商業の「ビジネス基礎」でビジネス社会を知り、商業の学習ガイダンスと進路を考えさせる授業の構築を教科会に働きかけ検討しているが、模索中で実施に大きな変化は見られなかった。

② 学習した商業の知識・技能を実践的に体験する場面づくりに位置付けた「模擬株式会社“芝翔”」 による高校生開発商品アンテナショップ構想の 3 年計画 2 年目、試行実施と総括を行い、次年度以降につながる取組ができた。発展、定着に向け一層充実させていく。

③ 竹芝地区まちづくりへの継続参画として、本年度は 3 回目のシンポジウムへの協力、魅力発見報告会への参加や地域活動への協議を行ったが、生徒分担で中心に担当する組織が曖昧なまま終えてしまった。まちづくりへの中心は生徒会執行部、アンテナショップは“芝翔”など、位置付けを明確にする必要がある。

（４）役立つ技術・技能の習得と検定・資格の取得

① 商業の学習を基礎とするプレゼンテーションの機会を意図的により多く計画、実施することで実用的スキルを身に付けさせる取り組みを、情報処理の中でインターンシップに行った企業を題材に行わせ、7 企業については 3 月にインターンシップでお世話になった企業担当者約 30 名を招いての報告発表までを行った。教科をこえたＩＣＴ活用の拡大を図って行く。

② 生徒が必要とする各種検定試験取得のため、授業以外での講習や支援に取り組んだが、全商検定 3 種目以上 1 級合格者は 29 名(前年 36 名)と減少した。中には 5 種目 1 級合格者もいるが、目標をしっかり持たせた検定取得への取り組みをさせるよう、指導の工夫が必要である。

次年度新入生から、目標を明確に学習、必要な検定取得を推進するために商業を中心に教育課程改善を図り、一層の充実策を実施して行く。

（５）帰属意識と自尊心の育成

① 学校行事の充実により意識啓発を図り、学校評価による満足度は生徒が 67%（△1%）、保護者が 89%（△12%）と向上しており、主体的な集団意識と各自パフォーマンス発揮を充実させる。

② 部活動や生徒会活動、ボランティア活動が活発に行われ、各大会や協議会に学校代表として積極参加し、参加生徒の自信に繋がった。学校評価の満足度は、生徒 66%（▼6%）、保護者 77%（▼3%）とやや低下傾向にある。組織対応で充実度の向上を図って行く。

（６）キャリア教育の充実

１学年全員と２学年希望者に対して、国際ロータリークラブ 2750 地区の協力をえて、12 月 10 日（水）11 日（木）に企業約 117 社で 320 名のインターンシップを実施した。中学校までのものと違い、社員として実務体験が行え、生徒・保護者・企業から好評であり、進路を考える有効な機会となった。インターンシップ報告会を３月 22 日（火）に受入企業から約 30 社の担当者参加を得て、1 年生の体験企業７社のプレゼンテーションとして実施でき、参加者から好評を得た。

（７）国際的な視野を広める

国際的視野を広めるための取り組みでは、本校に配属されたＪＥＴによるミシェル講師による献身的指導が効果を上げている。また、夏季英国研修には８名（前年６名）の参加があった。

（８）連携の推進

連携型中高一貫教育研究協議会を年５回開催した。（北区飛鳥中学校・十条富士見中学校）８月から 12 月にかけて２回の体験授業を兼ねた見学会ほか、生徒によるビジネスマナー講習、11 月に半日体験入学の連携活動を行った。なお連携では 12 名の受け入れ枠に対し４名の入学があった。一方、高大連携や地域連携の定着を模索しており、生徒に有効な形を構築していく。

Ⅱ 次年度以降の課題と対策

1 生徒の学力向上と進路実現

（１）基礎学力の向上

① 教科毎の指導目標を明示し、生徒に目標をしっかり持たせた学習への取り組みを行わせる。

② 数学、英語、簿記関係科目について習熟度又は少人数授業できめ細かな指導を行なう。

③ 学力及び技能スタンダードにより実態を把握し、全教員による授業改善を行う。

（２）進路実現

① 生徒一人一人の目的意識を向上させるため、資格取得の意義を十分説明・理解させ、検定試験を軸とした教育力アップを図る。また、進路に対応した教育課程の再編を検討し、改善するとともに生徒、保護者及び中学校等に十分な周知をしていく。

② キャリア教育を充実させ、生徒の職業観、勤労観を高めた進路実現につなげる。この一環として、1 学年全員のインターンシップを継続し、組織対応で早期からの進路意識向上に活用する。

③ 平成 28 年度入学生の教育課程改編で、生徒の進路を見据えた選択分野別学習の充実を図る。

２ 意欲ある生徒の募集

（１） 入試倍率の拡大

① 生徒募集のための学校見学会や説明会、出前授業、体験入学等を全校体制で計画的にこなし、本校理解を深める。

② ホームページのトピックスを活用して、こまめな活動状況や学校の“今”を情報発信する。

（２） 連携型中高一貫教育校の取り組み

現在連携の北区飛鳥中学校と十条富士見中学校との連携内容を検討し直し、入学選抜関係部分とその他の連携部分を整理し、その効果を検証しながら入学希望者拡大を図る。また、正規の連携中学校以外も可能な取り組みの提供を行い、高校理解と情報提供等に努める。

（３） 魅力ある商業特有の教育活動への取り組み

① 生産～流通の一連の流れの中で実践的なマーケティング、販売広告、簿記、情報処理、マナー教育を展開するため、全国商業関係高校生開発商品の芝商アンテナショップ構想を具体化し、一層の拡大実現に着手するとともに店舗設置を目指し、生徒・教員とも体制づくりを推進する。

② 地域連携を中心に社会と接する機会を設け、社会の一員として有用な精神を学ぶため、竹芝エリア街づくりに参画して、生徒の具体的活動体験機会を設定する。また、地の利を生かした観光案内等ができる程度の使える英語の学びの環境をつくる。

【２７年度数値目標と実績】

		目　標	本年度実績	昨年度比
入選応募倍率	推薦	3.5倍	2.60倍	▼ 0.38
	一般	1.2倍	1.09倍	△ 0.01
進路決定		100%	就職　55.6%	△ 9.4
			四短大 41.4%	▼ 11.4
			その他　3.0%	▼ 2.0
主な検定試験合格人数				
	全商簿記１級	70名	44名	▼ 3名
	日商簿記１級	1名	0名	0
	日商簿記２級	40名	27名	△ 3
	全商英検２級 or ｽﾃｯﾌﾟ準２以上	50名	27名	△ 3
学校評価	入学満足状況	80%以上	73.9%	▼ 7
	マナー指導	80%以上	81.5%	▼ 3.2
	教員授業改善	80%以上	60.6%	▼ 2.8
	進路指導満足	80%以上	73.6%	▼ 4.7